



最新式

超小型スーパーの誕生

ミニアチューア

—MT管を使ったオールプラスチック製ラジオ—

か

りに、あなたがPXの
ウインドで、外国製の
美しいオールプラスチック・キ
ャビネットの小型ラジオを見つ
けたら、

『—はほう』とか、
『いいラジオだ』とか、つぶや
いて、口笛を吹いて買いたくな
るような気が、ムラムラと湧
きあがってくるだろう。
それは、あなたばかりではな
い。

少くとも、近代人ならだれで
も、そんな気持に支配される。
それほど近代人には、小型で
プラスチック・キャビネットの
美しい色彩と、新しいデザイン
をほこるラジオには魅力がある

日本でも、戦前・戦後を通じ
て、小型ラジオが多数、市場に
姿をあらわした。が、本格的に
小型化されたラジオには、乏し
かった。なかでも、戦後は一般
に、ラジオ技術が向上したにも
かかわらず、各メーカーとも大
なり、小なりの経営難・資金難
にわざわざいされ、姑息な小型セ
ットしか、製造し、販賣し得な
かった。

ところが、弊社では、せつか
くの技術水準の向上を、研究に
生産に遺憾なく發揮し、本格的
な小型ラジオの生産に努力して
きた結果、ここにスタイル・性
能・品質、すべて近代人を満足

させる、オールプラスチックの
超小型五球スーパー（PS—五
一型）が生れたのである。

このセットこそ、わが國の本
格的な小型ラジオの将来に、より
よい方向と、明るい前途をあた
える大きい価値と、使命をもつ
た眞の畫期的・新製品といえる
のである。

では、次に超小型五球スーパ
ーラジオ（PS—五一型）の三
つの特異性をみてみよう。

光澤ある外觀……

今まで、いずれのセットメー
カーとも、ラジオのキャビネッ
トといえば、木製、あるいは、
金属製が常識だった。日本製品
で、プラスチック製のキャビネ
ットをもつたセットが見られな
かったのは、そうしたところか
らである。

が、こんど、ナショナルのP
S—五一型によつて、日本製品
にも、オールプラスチック製キ
ャビネットのラジオが、見られ
るようになったのである。

このオールプラスチック製キ
ャビネットの材質は、尿素系樹
脂で、美しい色彩と光澤をもつ
ている。構造上からみると、音
響効果、耐熱、耐濕に、充分の
意をそそいでいる。

一方、デザインはプラスチック
クの特徴をいかした新しいもの
で、そこへ加わる新構想のダイ
ヤル——これらは大膽な近代美
を、遺憾なく發揮し、今までに
見られなかつた、理想的なキャ
ビネットといつて過言でない。
新構想ダイヤルを見てみよう。

キャビネットの正面に、大型
のクロック（時計）スタイルの
ダイヤルをとりつけ、その照明
は今までのように、ダイヤルに
はない。では、見にくいのでは
ないか、と、心配することは無
用である。

ナゼなら、ダイヤル面が大き
く、文字が浮き彫りされている
ためと、ダイヤル面が舊來のセ
ットのようには、後部にさがつて
おらず、直接、表面に出ている
ために、さきのような心配はい
らないのである。

さらにもうひとつ、スイッチ
をいれると、赤色プラスチック
の指針が輝き、その指す方向に
光のビーム（束）が走る——とい
つた新機軸をとりいれたため、
目盛の指示はもちろん、パイロ
ットランプの役目を充分果たし
てくれる。（實用新案出願中）

こうしたダイヤルの新しい方
式は、すでにアメリカで用いら
れ、スーパー級のセットには、
ほとんど、ダイヤルライトをも
つたものがない、パイロットラ

ンプのみである。日本で、この
方式を採用したのは、ナシヨオ
ルのPS—五一型が始めてであ
る。

さらにPS—五一型のダイヤ
ルは、二四〇度の回轉角度をも
つているため、目盛が擴大され
て、選局が非常に容易なことも
特筆すべきことである。

性能的のよい MT管……

使用している真空管は、げん
ざい、もつとも進歩した、親ゆ
び大の、一名ビーナツ管と呼
ばれている、MT管（ミニアチ
ューア・チューブ）で、次の五
本がそれである。

6BE6（周波數變換管）、6
BA6（中間周波増巾管）、6A
T6（第二檢波、AVC兼低周
波増巾管）、6AR5（出力管）、
6X4（整流管）。

こうした真空管の名前を見た
だけで、新しさを感ずるようだ
が、それぞれの作用をみると、
ST管の、6WC5、6D6、
6Z—DH3A、41、80に
まさる性能を有している。

これを、ST管を一段階進歩
させた、GT管でみると、6S
A7GT、6SK7CT、6S
Q7GT、6F6GT、5Y3
GTになるのであるが、これに



もまさる性能を有するのが、MT管である。

以上は、真空管特性表をみれば、明らかにうなずける點である。

結局、P S—五—一型は、従來のST管より飛躍すること、GT管をとばして、MT管を使用し、その性能は極めて高いものを採用しているのである。このセットの新しきは、ここでも、はつきり證明されている。

ところで、こうしたMT管の使用は、わが國では、ラジオ界はじまつて以來のことだが、アメリカでは、すでに早くから用いられ、今日ではラジオだけでなく、小型で高性能の特性をいかして、テレビジョン受信機（最低十一球程度、真空管が使用されている）に、當然のように使用されている。

回路はとくに、目新しいという程ではないが、下圖に示すように、ループコイル自蔵の五球スーパーヘテロダイン方式である。

電源は、オートトランス方式で、Bマイナス回路は、シャシーから浮かせてあるから、シャシー板やツマミのシャフトにふれども、ショックを感じない。

また、フィルター回路のコンデンサーには、大容量の電解を使用しているため、とくにハムが少く、したがって、バーンナ

ルラジオの本質的な役目——『ベッドラジオ』として不愉快な雑音になやまされず、すんだ音でたのしく聴くことができる。

出力回路をみると、電流負饋還による音質補正を、おこなっているのので、スピーカーの良好な特性と、キャビネットの音響効果と相まつて、聴きやすく、忠實度のたかい原音再生が得られる。

ループコイルには、遠距離受信に便利なように、アンテナ端子が設けられている。

感度と分離

感度は、高性能のMT管と、高能率の中間周波トランス（いずれも小型である）によつて、大型スーパーと同等以上（ST管シリーズのセットにくらべ、約二倍（6DB）ていど向上している）の感度が得られる。

分離では、中間周波トランスが、複同調方式であるため、充分に満足できる結果が得られ、もちろん、民間放送は安心して聴くことができる。

販賣の場合、小型セットは出力が問題になる。素人は小型セットの出力に、疑問をいだきやすいからである。

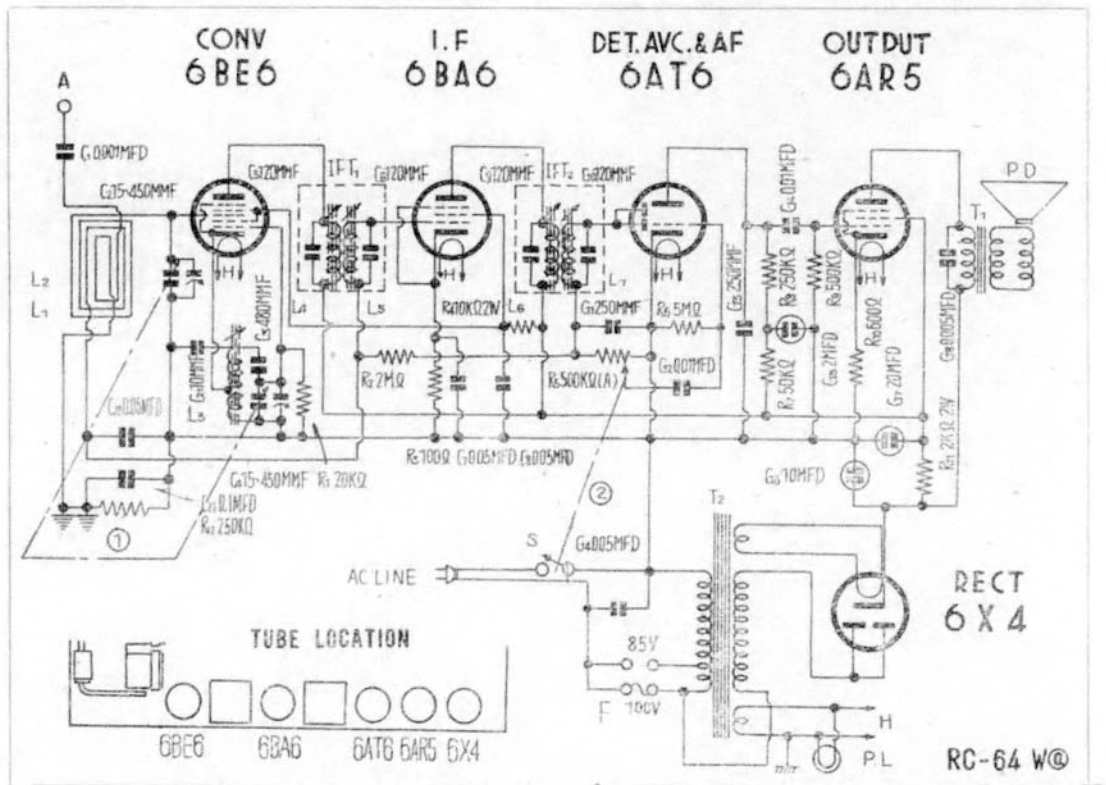
P S—五—一型の出力は、バー

ンナルスーパーの本質から見て五〇〇MWていどで充分だが現在の日本の放送聴取事情を考えて、最大二Wの出力が得られるよう、設計されている。——これはバーンナルスーパーラジオとして、充分すぎる位の出力である。

最後に、生産面から特異性をみると、戦後、弊社が発表した小型バーンナルスーパー『五—一—四型』『五—一—二〇型』の技術と生産経験を生かして、合理的な設計と製造方法をとっていることである。

これは、品質にムラがなく、安定度のたかい、いわゆる、品質を保證された、お店ではもつとも賣りやすい、需要者にとつては買いやすいラジオを、生産する上において、極めて重要な役割を果しているのである。

新春をむかえ、民間放送開始が



間近かにせまつた——今日、超小型五球スーパー（P S—五—一型）の登場は、業界にとつても、お店にとつても、需要者にとつても、あらゆる角度から眺めて

みて、まことに大きく意義深いものがある、と、いわねばなるまい。（右圖はP S—五—一型配線圖）

（N・T）